

「大野木場砂防みらい館」から歩いて約1分です。  
ぜひ、ご見学ください。

## 被災施設(旧大野木場小学校校舎)のご案内

館の南側には、1991(平成3年)年9月15日に発生した火砕流によって焼失した「旧大野木場小学校」の被災校舎がそのまま保存されています。焼け焦げた校舎や教室内の机・イスなど見学することで、一瞬にして学校全体を焼き尽くした火砕流の恐ろしさを実感することができます。



教室内に散乱する焼けた机やイス  
(1992(平成4年)年1月17日撮影)

子供たちの楽しい学びの場は、  
たった一度の噴火災害で  
すべて廃墟に。

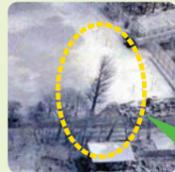
災害発生当時、  
学校を襲った熱風は  
数百度もあったと  
推測されます。



火砕流による熱風で焼失、破壊された校舎や体育館  
(1991(平成3年)年9月18日撮影)

## 蘇ったイチョウの樹

校庭には、平成3年に発生した火砕流で焼けてしまったものの自然の生命力により見事によみがえったイチョウの樹があります。大野木場小学校では、毎年9月15日をメモリアルデーとし、火砕流災害の脅威を語り継いでいます。



被災直後のイチョウの樹



メモリアルデーで、学んだ噴火災害について発表する児童



大野木場小学校被災校舎で蘇ったイチョウ

## ご利用案内

どなたでもご自由にご覧になれます。  
どうぞお気軽にご来場ください。



アクセス



- 開館時間 / 9:00~16:30 (入館無料)
- 駐車場 / P 大型可 ♿ 対応
- 休館日 / 12月29日~1月3日
- 場 所 / 長崎県南島原市深江町・旧大野木場小学校よこ
- 所要時間 / ※島原外港より ▶ 車で約15分 ※島原駅より ▶ 車で約20分

お問合せ先

### 大野木場砂防みらい館

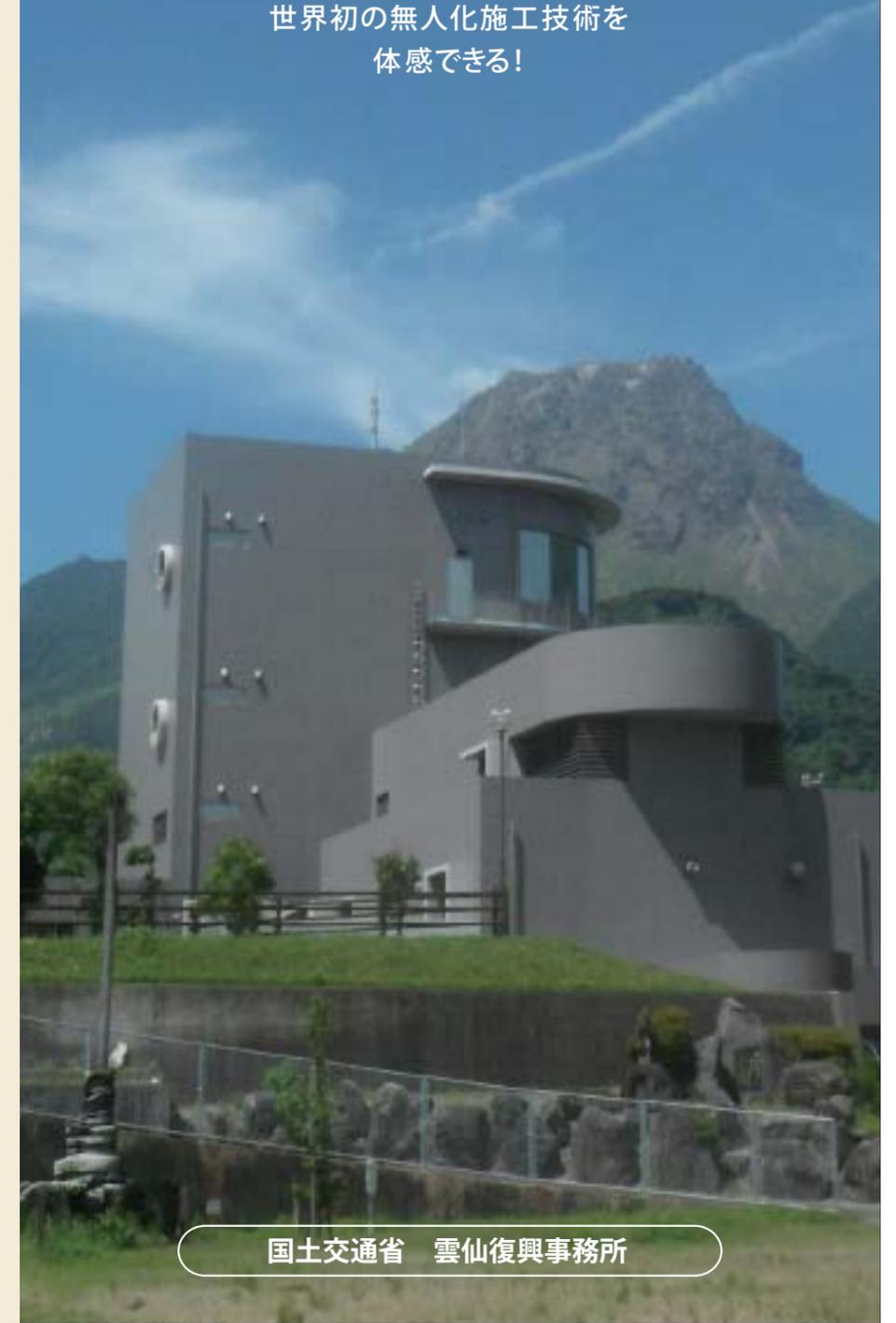
〒859-1505 長崎県南島原市深江町戊2100-1  
TEL.0957-72-2499 FAX.0957-72-5633

### 国土交通省 九州地方整備局 雲仙復興事務所 調査課

〒855-0866 長崎県島原市南下川尻町7-4  
TEL.0957-64-4171 (代表) FAX.0957-64-4127  
http://www.qsr.mlit.go.jp/unzen/ E-mailアドレス:unzen@qsr.mlit.go.jp

# 大野木場 砂防みらい館

溶岩ドームを監視し、  
火山・砂防の本物を見て、噴火災害の猛威や  
世界初の無人化施工技術を  
体感できる!



国土交通省 雲仙復興事務所

## 開設の目的

雲仙・普賢岳では、火砕流は発生しなくなりましたが、巨大な溶岩ドームが山頂部に不安定に存在し地震や豪雨により大崩壊の危険性があります。こうした危険に備えて溶岩ドームの監視、工事従事者等の避難場所や無人化施工操作室を確保するため、平成14年9月に開設されました。



「大野木場砂防みらい館」は旧大野木場小学校に隣接

## 4つの機能

「大野木場砂防みらい館」には、溶岩ドーム崩壊による火山災害に備え、溶岩ドーム下流域の安全の確保及び地域住民の防災意識の向上を図るための機能が4つあります。

### いざという時に備えて

#### ①溶岩ドームの監視(4F)

砂防施設の工事中は、ここから溶岩ドームを監視し、異常が認められた場合は工事従事者等に知らせます。  
(※一般の方は立ち入り禁止です。)



#### ②避難場所の確保(B1)

溶岩ドーム崩壊等の非常時には工事従事者や地元深江町住民の避難場所となります。内部は、約1日の避難に備えて酸素、通信施設、監視カメラのモニターを完備しています。



#### ③無人化施工操作室の確保(3F)

砂防堰堤などに堆積した土砂を緊急的に除去する必要がある場合、ここで無人施工機械を操作することができます。



### 平常時の有効利用

#### ④火山砂防の広報(3F・1F・B1)

雲仙・普賢岳による噴火災害やそれからの復興について、パネル・映像等で体感することができます。



## 溶岩ドーム崩壊の危険性

だから

### 不安定な1億m<sup>3</sup>もの岩のかたまり

雲仙・普賢岳の頂上に不安定に積み重なる岩の量は、ヤフオクドームの約53杯分に相当します。

### 大崩壊したら岩は約7分で有明海まで到達

地震や豪雨により、溶岩ドームの岩のかたまりは崩壊する危険性があります。最大規模の崩壊が発生したら、岩のかたまりは時速約70kmの速さで駆け下り、国道57号まで約5分、有明海まで約7分で達すると予想されています。



溶岩ドームの崩壊直後のイメージ図

## 無人化施工技術が、今なお必要

### 危険地帯の工事を無人化施工技術が可能に

噴火活動に伴って火砕流が頻発する中で、砂防工事を安全に進めるために無人化施工技術が開発されました。無人化施工技術とは、火砕流が到達しない安全な操作室で、現場の映像を見ながら大型重機をリモコン操作する技術です。

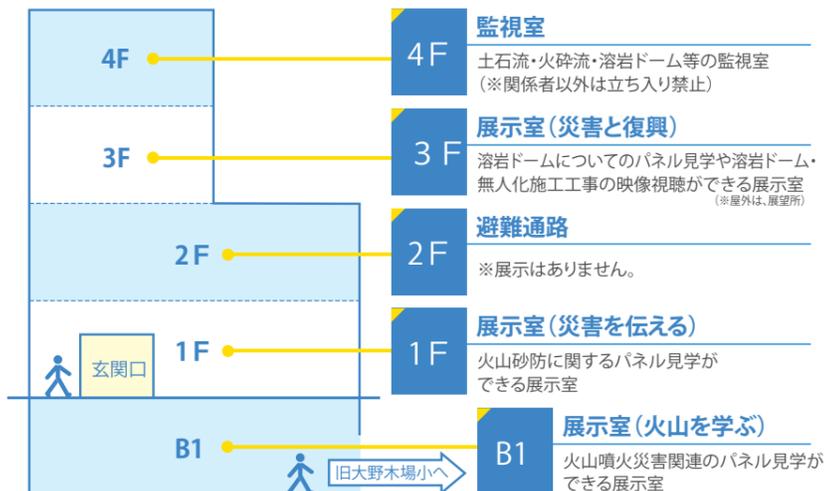
### 進化する無人化施工技術

最初は、除石工事から始まりましたが、水無川1号・2号砂防堰堤を施工し、大規模土石流に備える鋼製スリット構造の水無川3号・赤松谷川1号砂防堰堤も施工できるようになり、その技術は進化を遂げています。



無人化施工による鋼製スリット砂防堰堤の工事

## 館内のご案内



## 1F:生きている火山を学ぶ

火山活動のしくみや、火山による被害を防ぐための砂防工事の必要性、内容、効果などを学ぶことができます。火山についてまとめた小学生が作品(新聞等)の展示も行っています。



火山について解説したさまざまなパネル



火山について説明した子供たち手造りの新聞

## 3F:火山の本物を見ながら砂防を知る

### 展示室

無人化施工や溶岩ドームを具体的に知ることができます。また、床には空中写真がはりつけてあり、雲仙・普賢岳の空からの散策を疑似体験できます。

### 展望所

雲仙・普賢岳や火砕流の堆積状況など火山の実物を間近に見ることができます。土石流の流出をくい止める砂防堰堤も見学できます。



無人化施工の解説動画も視聴できる展示室



普賢岳の様子が一望できる展望所

## B1:噴火災害と復興を伝える

避難場所を有効利用した展示スペースで、パネルを使って噴火災害の脅威や復興対策を紹介。見学した小学生の感想文等も掲示しています。また、ここからは、館の南側にある「旧大野木場小学校被災校舎」を見学に行くこともできます。



雲仙・普賢岳の噴火災害の脅威や火山災害への備えの重要性をパネルで紹介



火山や防災に関する関係資料も閲覧可能